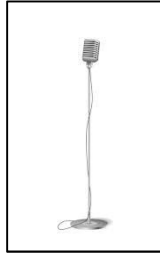


銀の皿

「三角形」



最近、この場所をお借りして自分の好きな物を紹介させて頂いているのですが、私は漫才が好きです。好きすぎて、中学の時クラスメイトとコンビを組んで友達に披露するくらい好きでした(今振り返るととても人にお見せ出来るものではなかったですが)。テレビで漫才をしていれば食い入るように見ますし、年末放送される漫才グランプリも必ず見ます。最近この漫才グランプリの常連だった「ナイツ」の塙さんが本を書きました。テーマは「漫才」についてなのですが、その中で興味深い一文を発見しました。「漫才は三角形が理想」

この本によると、この言葉は島田紳助さんが塙さんに向けてのアドバイスだったそうです。漫才には基本的にボケと突っ込みという役割があります。そのボケと突っ込みの掛け合いが笑いを生み出します。しかしそれだけではボケと突っ込みの間に一つの線が生まれるだけです。つまりこれを三角形にするためにはコンビが会衆に発信することを意識して漫才をする事が必要になります。そうした漫才はうねりが生まれます。そして大きなうねりのある漫才には綺麗な三角形が出来ているというお話でした。このアドバイスを聞いた時に塙さんは自分は漫才中、相方の土屋さんの顔を一度も見えていない事に気づかされたそうです。塙さんの告白の中で「自分が認められる事や、どうすれば賞が取れるかやっきになり、相方や会衆に意識が向いていなかった」と語っていました。最近この漫才コンビが意識している事はボケと突っ込みの掛け合いにお客さんを巻き込んでいくという事だそうです。すると以前に比べて漫才が立体的になったとおっしゃっていました。

これらの言葉を引用させていただくなら、私達が聖書を読む時に神様とイエス様との関係性が私達に何を教えているか？という観点で聖書を読まなければなりません。そうでないと聖書を読むときに平面的な読み方になり、訓練が主体的になったり、誘惑に勝利することが主体的になってしまいます。そうすると、訓練の足りないクリスチャンは弱い未熟なクリスチャン、誘惑に勝利出来ないのは信仰が弱いからという結論になりかねません。罪の赦し、魂の救い、永遠の命はイエスキリストが神の計画に対してその従順さによってもたらされたものです。私達はその父なる神と子なる神・イエスキリストの関係性から愛と従順と謙虚さを学ぶことが出来るのです。それが例え試練や苦難の中でも取り去られる事が無い、これが真理です。私の好きな新聖歌438番「悩む世人のため」の一節に「悩む世人のために咲き出でし花あり、その香今や世界の隅々に及べり」とあります。私達が苦難と試練の中で出会ったイエス様は今度、皆さんの内から円を描くようにその香りを人々に放つ事が出来ます。皆で共に建て上げられる教会を目指して前進してまいりましょう。

